

飯能まっりの山車

＜一丁目＞

・建造 大正 9(1920) 年
総ケヤキ造りで廻り舞台付き。高麗村(現日高市)の大工が製作した。

＜二丁目＞ 飯能市指定文化財

・建造 明治初期
現在の立川市で建造され大正 9 年に取得。平成 24(2012) 年に人形が乗る姿に復原修理。

＜三丁目＞

・建造 明治中期ごろ
建造当初は人形山車だったが、大正 4(1915) 年に現在の形に改造したと伝えられている。

＜河原町＞ 飯能市指定文化財

・建造 明治 30(1897) 年
当初は静岡で使用していたものを明治 37 年に購入。飯能では珍しい江戸型人形山車。

＜宮本町＞

・建造 大正 14(1925) 年
廻り舞台付きで一丁目の山車と同じ大工が建造。八王子の彫刻師による彫刻が見どころ。

＜原 町＞ 飯能市指定文化財(山車人形のみ)

・建造 明治 15(1882) 年
名工として知られる 3 代目・原舟月が明治 25 年に作った山車人形「神武天皇」が乗る。

＜前 田＞

・建造 昭和 22(1947) 年
地元の大工・職人により建造された廻り舞台付きの山車。最上段には諫鼓鳥の彫刻を飾る。

＜柳 原＞

・建造 昭和 22(1947) 年
町内の材木商が提供した材木を材料に、町内の大工の手によって建造された山車。

＜中 山＞

・建造 昭和 53(1978) 年
地元の大工組合により建造された廻り舞台付きの山車。見どころは屋根の曲線。

＜双 柳＞

・建造 平成 3(1991) 年
総ケヤキ造り。富山県井波の職人により建造されたもので美しい井波彫刻が見どころ

＜本 郷＞

・建造 平成 19(2007) 年
飯能まつりに最も新しく仲間入りした山車。前柱を飾る龍の彫刻が人目を引く。

展示をご覧になったあとは、

このマップをお供にぜひ市内へお出かけください。

新たな出会いや発見があなたを待っているはずです。



- ▲ **アクセス**
- 西武池袋線飯能駅から徒歩約 15 分
 - JR 八高線東飯能駅から徒歩約 25 分
 - 飯能駅および東飯能駅より国際興業バス名栗方面「市民会館・博物館」バス停下車徒歩 3 分、または西武飯能日高方面「天覧山下」バス停下車徒歩 5 分

- ▲ **利用時間** 午前 9 時から午後 5 時まで

- ▲ **休館日**
- 月曜日(祝祭日を除く)
 - 祝日の翌日(祝祭日の場合は開館)
 - 年末年始(12/28～1/4)

- ▲ **入館料** 無料

▲▲▲ ホームページ・Facebook 更新中 ▲▲▲

博物館・学芸員の日常や仕事の裏側などをお伝えしています。



Facebook



ホームページ



twitter



〒357-0063

埼玉県飯能市大字飯能 258-1

TEL (042)972-1414 FAX(042)972-1431

E-mail:museum@city.hanno.lg.jp

飯能市立博物館

(愛称) きつとす

おでかけガイドマップ⑤



「町のまつり」山車マップ



飯能まつり

飯能・町のまつり

飯能の町における祭りは、既に江戸時代にはおこなわれていた記録があります。ただ、今日のような山車行列とお囃子を主とする祭礼となったのは、明治時代以降のことであり、「飯能まつり」として市をあげての行事となったのは戦後になってからのことです。とは言え、今では飯能を代表する伝統文化の一つとして多くの人びとに親しまれています。

飯能まつりは、観光振興等を目的に市内各地の祭りを統合して昭和 46(1971) 年に開催したのが始まりです。例年 11 月の第 1 土・日曜日におこなわれています。山車巡行のほか、市民によるパレード等もあり、本市を代表する祭りです。

一方、夏には「飯能夏祭り」がおこなわれます。飯能八坂神社の祭礼を母体とした祭りで、平成 11(1999) 年から現在の名称・形態で開催されています。底抜け屋台の引き回しが主体の珍しい祭りです。

どちらの祭りも飯能の町の祭礼文化が堪能できますので、ぜひお出かけください。



飯能まつり (夜の引き合わせ)



飯能夏祭り

飯能山車マップ



宮本町



原町



中山



至川越



至圏央道



双柳



本郷



前田



河原町



三丁目



二丁目



一丁目



柳原

